とよみっ子

発行　とよみ小学校
校長　玉城　健
令和８年度 10 月号
５年生福祉体験

相手の目線から見えてくるもの

先日の車椅子体験では、子どもたちから「少しの段差でも進めない」「急に押されると怖い」といった気づきの声が多く上がりました。普段通り過ぎている場所にも、乗ってみて初めてわかる「壁」があります。

大切なのは、相手の立場になって「今、どんな気持ちかな？」と考え、自分から「何か手伝いましょうか？」と声をかける一歩です。今回の体験をきっかけに、みんなが安心して過ごせる優しい思いやりの輪が、学校や地域へ広がっていくことを願っています。



令和８年 10 月5 日(月)
福祉体験　５年生



段差に苦戦する場面



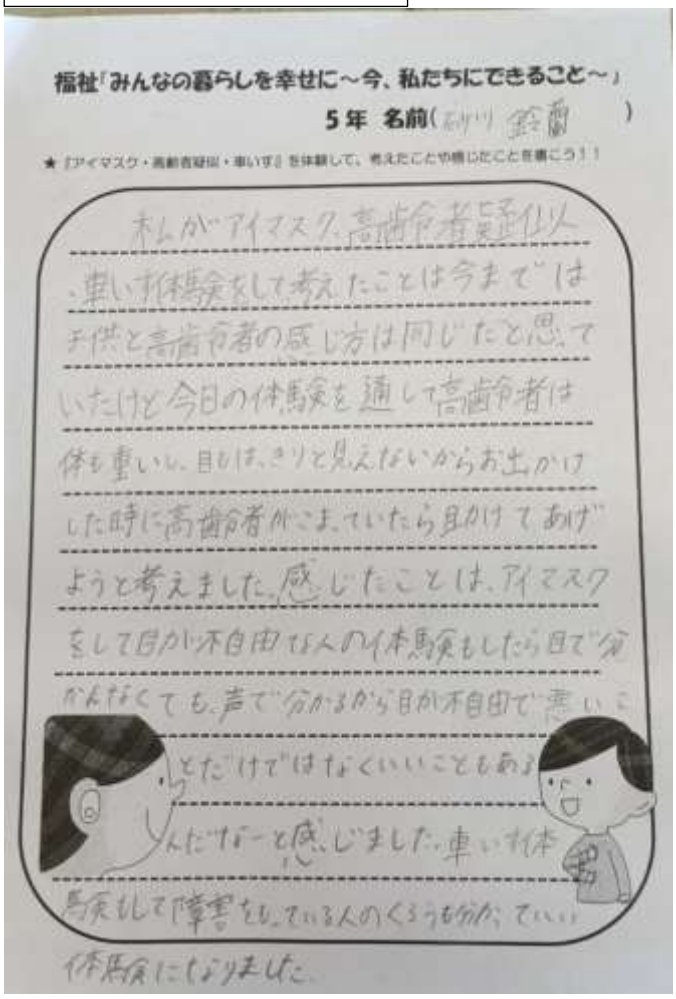
事務室前にもスロープがあるね



乗り心地を確かめる場面



体育館玄関横にもスロープを発見！



福祉「みんなの暮らしを幸せに～今、私たちにできること～」

5年　名前（　　）

★アイマスク・高齢者疑似・車いす 各体験して、考えたことや感じたことを書こう！！

私がアイマスク、高齢者疑似、車いす体験をして考えたことは今までは子供と高齢者の感じ方は同じだと思っていたけど今日の体験を通して高齢者は体も重いし、目しは、はっきりと見えないからお出かけした時に高齢者がこまっていたら声かけてあげようと考えました。感じたことは、アイマスクをして目が不自由な人の体験もしたら目で分かんなくても、声で分かるから目が不自由で悪いことだけではないこともあるんだなーと感じました。車いす体験もして障害をもっている人のくろうも分かっていい体験になりました。